

DOYU

I W A T E

7
July

2023 Vol.170
同友いわて

「原点回歸」が古くて新しい麴の魅力を引き出す」

「SHIMONO528（しものごうじや）」がっなぐ人と地域の食文化」

株式会社麴屋もとみや 代表取締役 本宮 啓 氏



総務課長 大森 直子 氏

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。
岩手県中小企業家同友会 | <http://www.iwate.doyu.jp/> |

《シリーズ》 いきいき 活き生き企業訪問記

「原点回帰」が古くて新しい

麴の魅力を引き出す

SHIMONO528（しものこうじや）が つなぐ人と地域の食文化

（株）麴屋もとみや

代表取締役 本宮 啓氏

工夫で家族の団らんを 彩った時代



二代目看板娘だった本宮スミ氏
（本宮氏の祖母）

れ、なくてはならない食の中にありました。

麴屋もとみやが創業した94年前、街道の宿場町としての安代地域の経済は松尾鉾山を中心にまわっていました。鉾山での過酷な労働の中での夜の一杯、そして食事は地域の人々にとっての唯一の楽しみでもあり、味噌醤油、酒のも

岩手県北地域は冷涼な厳しい気候の中で、安定した米の収穫は十分ではなく、寒さに強い雑穀や蕎麦で食卓を賄うことも多くありました。その中で少しでも子どもたちと家族の団らんを楽しみたいものにしてほしいと、母親たちが麴を生かし工夫して貴重な野菜を美味しく調理し、食の豊かさを彩っていった歴史がありました。その真ん中にあって、地域の各家庭の食卓をつないでいたのが、麴やもとみやでした。

一軒一軒、足で歩いて 味噌を販売

2代目が開拓したのが、「仕込み味噌」の文化でした。当時各家庭で1年で使う味噌を樽に仕込むのが、家庭の主婦の仕事でした。水に一昼夜浸した大豆を炊いて潰し、塩と麴を加えて半年以上寝かせます。大変な重労働でした。そこで店が代わりに樽に仕込んで家庭に届ける仕込み味噌のお届けを始め、その手軽さはすぐ各家庭に広まりました。

さらに現4代目本宮啓社長のお父様であられる3代目（現会長本宮隆一氏）は、30、40年ほど前から、県庁所在地の盛岡市内の新興住宅地に、味噌を各家庭に届ける提案をはじめました。「味噌は各家庭で作るもの」という時代から、店で購入する時代へ移行する中での営業活動でした。

見ず知らずの家のインターフォンを一軒一軒鳴らしていきます。「安代から来た麴屋です。手作りの味噌はいかがですか」と、開拓していきま

した。その数は今でも数百軒あり、毎週2回お届けに伺っています。当初はたった一軒のお客様のために、往復2時間もかけてお伺いすることもあったそうです。

そうして信頼を一つひとつ積み上げていきました。「麴屋もとみや」は、3代を通してお一人お一人の家庭を大切にしたい店作りをしてきました。

麴の食文化を消して いいの

現社長の啓氏が、金融機関をやめて後継することを決めたのは、今から4年前のことです。しかし以前は「ぜひ戻ってきてほしい」と話していた両親ともに、「少しづつ仕事を減らし、自分たちの代で閉めるつもりだ。大変な業界だから戻ってくるのはやめた方がいい。」と反対するようになっていました。

実家に戻る決断は銀行員として伺ったお客様からの声が大きかったと言います。「麴の食文化をこのまま消していいのか」「地域になくてはならない店」など、周りの方々



からの声を聞けば聞くほど、地域のお客様がどれだけ店を愛してくださっていたかを感じるようになりました。

大きな失敗から 気づいたこと

しかし決断し退路を断って入社すると、いきなり製造現場の社員から「今度入った課長（当時）が営業でどんどん注文を取ってくるから」と言われ、発憤した啓氏は銀行時代に培ったBtoBで短期間で相当量の仕事を取り、急な注文増に製造現場は疲弊してしまいます。それでも『なぜできないのか』と社員を責

めてしまう自分がいました。結果を出さないといけないと焦っていました。それでも父は『社員は行動を全部見ているよ』としか言わず失敗を重ねても何も言わず任せてくれた。』と当時を振り返って啓氏は話します。

「何とかしなければ」が空回り

経営者として学ぶ場がもつと欲しいと思った啓氏は自ら岩手同友会の門をたたきま



す。そして入会してすぐに、半年間の「第15期人を生かす経営・経営指針実践塾」を受講しました。

しかし「社員と話さなければ進まないよ」と関わって下さった実行委員の皆さんから言われますが、なかなか一歩が出ません。「専務は何を考えているかわからない」と社員からも言われ、自分の中に何もないのに、格好をつけてあるように見せている自分がいました。」と啓氏は当時を振り返ります。

そこから麴の勉強を一から徹底してやり直した啓氏は、麴の持つ面白さ、麴が食や人をつなぎ、暮らしを豊かにしていくものであることに、あらためて気づかれます。そして社員を突き放してしまっていた自分に気づきます。

止めどなく出てくるアイデア

そんな折、様子を見ていた父親から啓氏に次期の社長就任の話がきます。同時進行で、「味噌茶屋」の改修を任せられることになりました。



前社長は7年前に、会社の敷地内に物販店舗と麴の食文化を伝えるイートインコーナーを併設した「味噌茶屋」を立ち上げました。瞬く間に人気のスポットになり、周辺からの観光のお客様も多数来場するようになりました。しかし3年前に突如起きたコロナ禍で、一気に状況は変わってしまっていました。

まず始めたのは「現場の社員の声をすべて聴く」ことでした。プロジェクトを組み製造現場や総務、営業から社員に出てもらい、現場で感じて

いることやアイデアをワークショップを重ねて、すべて声に出してもらいました。

すると社員からは「改修するなら、この店があつて良かったと心から思われるような商品やサービスを提供したい」との声が出され、数え切れないほどのアイデアが出てきました。止めていたのは自分だったことに、あらためて気づきました。

10年前に取り組んでいたレシピが形に

社員から出たアイデアの一つが麴をフルに生かしたファストフードです。社員には主婦も多く、「子もたちに何かご褒美を」と思っても、子どもたちがドキドキするようなものが地域にはない。「だったら作ろう」と、出てきたのが麴と地元産の素材をフルに生かしたハンバーガーでした。

実は10年前、岩手県の工業技術センターに通い、麴の新たな魅力を発見しようと試みていたのは先代社長でした。麴パウダーを使用し、パンに練り込み発酵させるもので

す。外側はカリッとしていて中はしっとり、麴の風味がふわっとする試作品は好評でした。そのレシピを使いパンズを焼き上げ、中身のハンバーガーは岩手県固有の短角牛を麴で柔らかく仕込み、ソースには麴と海の藻塩「のだ塩」を使った力作ができあがりしました。原料も作る人たちがすべて岩手県産。それまでの3代が積み上げてきた「麴を通して食文化をつなぐ」理念が、4代目に引き継がれた瞬間でした。





コロナ禍の中で幾度となく
繰り返したのが社員とのワー
クショップでした。そこには

外部からデザイナー
や知り合いの経営者
にも入ってもらい、
言いにくいことも、
どんどん話してもら
う仕組みを作りました。

そこから生まれた
新たな店舗の名前は
「SHIMONOS
28」。一見新しい
ネーミングに見えま
すが、実は読みは「下
(しも)の麴屋」。啓
氏が小さい頃、「ど
この孫だ」と聞かれ
ると屋号で「下(し
も)の麴屋」と応え
ると地域の誰でもわ
かりました。まさに
94年前に初代が創業
したときの原点、「地
域になくてはならな
い麴屋」の由来その
ものです。

社員とのワーク
ショップからは、新
たな「kiki(きー



く」というブランドも生ま
れました。ネーミングの原点
は「麴」の音読みキク、そし
て啓氏が壁にぶつかり、そし
て解決の糸口となった「聴く」
こと。麴の強みは人をつなぎ、
食をつなぎ、みんなを笑顔に
できること。ロゴも笑顔が見
えるデザインです。

耳を傾け、食をつなぎ、
皆を笑顔に

販売する商品もすべて、社
員と話し合いながら揃えてい
きました。「大切に育てて下
さる農家さんがいるから、私

たちが食べられる。『地域の
美味しい』をつないでいこう
と、地元二戸で栽培された無
化学肥料米「きらほ」を玄米
で販売するコーナーを設けた
り、県内一の出荷量を誇る青
色の鮮やかな「りんどう」を
使用した「りんどう染め」製
品を特設をしたりと、すべて
店内は「地域と麴」をつなぐ
ものばかりです。

啓氏は話します。「私たち
の原点、ルーツは『そのお声
にどう応えるか』。地域の方々
のお声に耳を傾け、お一人お
ひとりをつなげ地域全体に広
げること。そうして食の豊か
さを変化させ広げてきた。
もっと知るためには、もっと
聴いて、もっと広げること。
そのために人との関わりをよ
り強く持っていきたい。『あ
の心に心から食べさせたい』
と言われるものをつくりた
い。』原点をより深く見つめ、
人々の心の声に耳を傾け行動
すること。ここに新たな時代
へ向けた麴の魅力を引き出す
核心があります。

経営理念

私たちは、「学び合い」と「想い合い」で人
間味あふれる醸し人を目指します

私たちは、伝統と改革で麴と資源を生かし、
お腹の中から「元気」を創り続けます

私たちは、地域資源と出会いに感謝し、喜び
と愛情に溢れた地域未来を目指します

企業概要

株式会社麴屋もとみや

麴・味噌製造販売、体験教室

創業 昭和5年

資本金 300万円

社員数 19名

<https://kojiyamotomiya.com/>

岩手同友会第33回定時総会開催

「事業領域を再確認（見直し）し、生き残る経営から 克ち（価値）進む経営へ」

岩手同友会の第33回定時総会が5月26日金曜日に、ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングで開催されました。コロナ禍のなかで、昨年までの2年間はZoomオンラインとのハイブリットでの開催でしたが、今年から対面のみ



の開催を再開しました。3年ぶりの総会、特別報告、グループ討論、懇親会と続く長丁場の完全開催でしたが、皆さんの期待が伝わってくるような、熱気に包まれる中でのスタートとなりました。

困難な時代にこそ本領を発揮

代表理事挨拶に立った田村満氏（株）高田自動車学校取締役会長）は、「時代の転換点において、地域における中小企業の役割は以前にも増して大きくなっています。同友会は困難な時代にこそ、会勢を伸ばしてきました。円安、物価高、エネルギーの高騰など企業をとりまく課題は増すばかり。そこで今年度の2023年度のスローガンを『事業領域を再確認（見直し）し、



生き残る経営から克ち（価値）進む経営へ全力で向かおう」と掲げました。今回の特別例会の報告は、まさにこのスローガンをもとにした実践報告です。ご提案させていただく議案とともにじっくりと皆さんで議論いただき、一つでも多く持ち帰り、実践いただきたいと思っています。」と話し、開会しました。

また岩手県商工労働観光部経営支援課 総括課長の小野寺重男氏、盛岡市商工労働部部長の赤坂國彦氏にご来賓挨拶にかけつけていただき、その後議事に入りました。第一号議案の昨年度の活動報告、決算報告そして今年度の活動方針案、予算案が提起され、満場一致で承認されました。

いかなる困難な状況でもあきらめない

第2部の特別例会では、愛知同友会から中同協副会長・愛知同友会相談役理事のエイベックス株式会社代表取締役会長 加藤明彦氏をお招きし、『生き残る』経営から、『克ち進む』経営へ」今こそわが社の本業、事業領域の明確化をテーマにご報告いただきました。

加藤氏が同友会と出会ったのは46歳の時でした。その時初めて、労使見解（中小企業の労使関係の見解）に出会い、「いかなる困難な状況があつても、困難の原因を他に求めたり、仕方がないとあきらめない」と決めたことから、会社が大きく変わり始めた、との話から始まりました。それから29年、「何のために経営をするのか」を問い続けた時間だったと言います。そして、「今ある仕事は、必ずなくなる」「今いる社員は、必ずいなくなる」ことに気づき、市場創造、人材育成に全力を傾けるようになりました。

そして加藤氏の経営するエイベックス株式会社では、事業定義を「加工屋」から「鍛冶屋」に転換しました。「機械屋」と「刃具屋」まかせて加工作業をするだけの仕事から、自前で技能・技術の構築をする鍛冶屋へと変化させました。

今期の岩手同友会のスローガンである、「事業領域の見直し」への問いかけは、その後のグループ討論でもそれぞれの企業に置き換えて議論が展開され、熱のこもった学び合いの時間となりました。（加藤氏の報告内容の詳細は後日掲載予定です。）



2023

各支部総会通信

岩手リアス支部

新生「岩手リアス支部」が誕生！
沿岸が広域で連携へ

2023岩手リアス支部総会・特別例会が4月17日（曜日、陸前高田市のキャピタルホテル1000で開催されました。

域支部として今期から活動を広げていくことになりました。

新支部長として挨拶に立った河野通洋氏（株）八木澤商店代表取締役）は、「東日本大震災発災前、支部例会には毎回ゲストが並び、50名を超える参加者で熱気に溢れていました。間もなく1000名支部実現か、というところまで

いったところで、津波被害で日常の活動を休止せざるを得ない状況となり現在に至っています。そして今日、『岩手リアス支部』として新たにスタートします。15年という時を経て、今期大きく飛躍の年にしましょう。」と話し、新支部の誕生となりました。

また、特別例会では「どこよりも魅力あるグッドカンパニーをめざして」地域企業としての誇りと使命感をテーマに、（株）マイヤ 代表取締役会長 米谷春夫氏にご報告いただきました。震災後に、地域になくはない企業



岩手県中小企業家同友会
2023 岩手リアス支部総会・特別例会

としてどのような取り組みをしてきたのか、そしてこれらの展望について、思いの丈を存分にお話しいただきました。スーパードメインの再編が進み、大手資本と手を結んでいく企業が多い中で、なぜ地域企業として地域に根付いて頑張っているのか。どうして人にこだわり、毎年何人もの新卒者を採用し、地域貢献と「食」の仕事を通じた人間としての成長を願っているのか。そしてこれからの未来

展望について、熱くお話しいただきました。久々の対面での総会、そして特別例会に、盛り上がった一日となりました。

県南支部

関わり合い、
学び合う丁寧な例会づくり

4月18日（火）2023県南支部総会・特別例会が関内市内のホテルベリーノ一関で開催されました。

県南支部では昨年度、会員企業の経営体験報告に加え、地域で活躍している組織の方や金融機関からも例会報告者に迎え、幅広い視点で学ぶ機会を開催してきました。そうした積み重ねのなかで、アクティブに活動する若手の会員も増え、世代を越えて語り合い、学び合う風土が積み上がってきました。

共に育ち合い、
次世代に繋げていく支部に

今年度はより細やかな例会作りと会員訪問を行おうと、年間を通じてそれぞれの月例会のテーマを設定し、深め合いたいテーマから報告者を選定する方法に変え、年6回の支部例会、会員訪問例会を年5回開催することを掲げ、よ

り顔の見える活動をしていくことを決定し、取り組み始めています。

2023県南支部長の菅原秀子氏（前沢自動車学校（株）代表取締役）は「県南支部はゆっくりですが、着実に学び実践に繋がっていることを確信しています。また若手の幹事の方も増えました。ベテラン経営者も若手経営者もお互いに切磋琢磨しながら、共に育ち合い次世代に繋げていける支部活動にしていきたいと思





ます。ぜひ皆さん一緒に県南支部を盛り上げていきましょう。」と挨拶。今年度の支部の活動がスタートしました。

青年部と共催、各地からも若手が参加

第2部の記念例会は、岩手同友会の青年部と共催で開催し、秋田同友会から秋田マテリアル(株) 代表取締役社長 佐藤佑介氏をお迎えし、『BE HAPPY』な会社づくりは持続可能な企業づくり」〜売り上げ7倍のカギはSDGsだった〜のテーマで報告いただきました。

再生資源の回収・加工・販

売、産業廃棄物の収集運搬と中間処理を行う秋田マテリアル株式会社は、2007年に創業しました。佐藤佑介氏は2008年に現場を担う社員として入社しました。見ず知らずの事業を広げるために自ら様々な媒体を活用して学び、社内にも学ぶ気風をつくっていきました。そして様々な工夫で設備投資をすることなく取引先を増やし、飛び込み営業をしながら同業他社とは全く違う戦略で売り上げを伸ばしてきました。社員として入社した企業で今や社長として新たな事業を次々に開拓、社長就任時より3倍以上売り上げを伸ばしました。「二人よがりではここまでできなかった。社員と経営指針を共有し取り組んで来たからこそ」との報告でした。

今回は打ち合わせから室長、座長に至るまで岩手同友会の青年部会が主体となり、県南支部と協力しながら報告を盛り上げました。盛岡や県内各地からも参加があり、元気で熱い実践報告に、共に学びを深めた時間となりました。

県北支部

活力ある企業と地域づくりの実現をめざして

4月19日(水) カダルテラス金田一で2023県北支部総会・記念例会が開かれました。

総会では、前年度の活動報告と2023年度の役員が承認され、県北支部スローガンを「企業を取り巻く環境の変化を捉え、活力ある企業づくりと地域づくりを実現しよう!」を掲げるとともに、岩手山麓・はやて地区中心に顔が見える訪問例会を軸に支部の活動を進めて行くことを確認し総会を終了しました。その後、記念例会では、(有)ニコニコ総合企業 代表取締役



櫻田文昭支部長

大崎博晃氏より「社員と共に、地域になくってはならない企業をめざして」〜経営指針に掲げたビジョンの具現化へ〜をテーマに報告していただきました。

『ゴミの話ならニコニコへ』の会社になるために

1985年、義父が創業したニコニコ総合企業に入社します。前職が全くの畑違いだったこともあり、業界のことも地元のこともわからない状態での入社でした。一から仕事を覚えようと日々奮闘していました。2015年に義父が急逝し代表取締役に就任することになります。しかし、経営のことは全くわからず不安な気持ちだけが募る中、同業の方から同友会を紹介され2018年に入会。翌年、第14期人を生かす経営・経営指針実践塾を受講しました。受講がきっかけで「会社に対する想いがなかったこと」「仕事をこなすだけだったこと」に気づかされ、「自社は分別し資源を変える窓口ではないのか」と自分の意識・見方・

考え方が変化し、社内で行く組もうと試みますが、うまくいかず壁にぶつかります。そこで、就業規則の見直し、情報共有、数字公開をすることから始めることにしました。そこから少しずつ社内が変化していきました。課題はまだありますが、まずは「社員が生きがい、働きがいを持って働ける企業になるために社内環境を整え、お客様から『ゴミの話ならニコニコ』と言ってももらえる企業をめざしていきたい」と展望を描きながら進み続けている大崎氏の報告でした。



岩手県中小企業家同友会 023 県北支部総会・記念例会

盛岡支部

顔の見える細やかな地区活動を軸に



2023盛岡支部総会・記念例会が4月25日（火）にアイーナを会場に行われました。総会では今年度の活動報告として支部例会と昨年に引き続き、4地区に分かれての小グループ活動として地区の全会員訪問・財務に特化した学び・ミニ例会など顔の見える充実した地区会の報告がされました。そして今年度のスローガンとして「社員との信頼関係を深め、共に学び合い、

混迷の時代を生き抜く企業づくり」を支部活動方針として

1. 会員相互の経営を研鑽しながら会の活動を行います。
2. 人を生かす経営の確立を学び、同友会型企業の会員や仲間を増やします。
3. 本音で謙虚に語り合える会を目指します。
4. 会の存在意義を深め、会外への発信を積極的に行います。
5. 会での学びを会社で実行します。

の5つが掲げられました。

また、今年度新支部長に選任された、(有)くらし建築工房代表取締役 中村喜一氏より「今年度も地区会活動を中心に掲げたスローガンを役員と一緒に実践していきたいと思えます。」とあいさつがあり、新年度がスタートしました。

その後、記念例会としてクラシタス(株) 代表取締役社長 廣中 聡氏(宮城同友会)「自社事業の本業を深める」事業の再定義と組織づくりをテーマに報告していただき盛岡支部総会・記念例会を終りました。

県央支部



4月27日（木）2023県央支部総会・記念例会が紫波町オガール大スタジオで開催されました。

昨年からは県央支部として組織変更し、2地区で活動してきましたが、今年度は新たに地区が1つ増え、紫波矢巾地区、花北地区、遠野地区と3つの地区になります。当日は吉田代表理事(有)いわてにつかコミュニティ企画 代表取締役)もご参加いただき、ご挨拶をいただきスタートしました。

毎月の例会活動を丁寧に積みかさねる

総会では2022年度の振り返りとして、県央支部として新しく組織変更した2022年度は毎月の例会を、2つの地区で交互に担当し、打ち合わせから案内まで丁寧にして作り上げた例会を開催しました。

そして、それに合わせてゲストにも声がけや、訪問をした結果、新会員の入会も増え、支部として69名という過去最高の会員数になりました。

経営課題を自主的にとらえ実践につなげる

その後今年度の活動スローガン「自主・民主・連帯の精神で社員と共に人間尊重の経営をめざそう!」を掲げました。活動方針として1. 各社の具体的な経営課題を自主的にとらえ、深く学び実践につなげる例会をめざします。2. 環境変化を的確に捉え、自主的な経営指針(BCP含)の実践、労働環境整備を全社一丸で取り組みます。3. 各社の地域課題に取り組める仲間

を組織率3%に増やします。

4. 自主的な地域づくりのために、SDGsとエネルギーヴェンデ活用で会員間の連携を深めます。の4つの方針と役員案が提案され全会一致で承認されました。

どんな時代にも耐えうる強靱な企業へ

2023年度県央支部長の瀬川峰雄氏は「この2年間はコロナの影響もあり自粛ムードでしたが、そんな中でも、時代は刻々大きく変化しています。1社1社どんな時代にも耐えうる強い企業づくりをしていかなければならないと強く感じています。そのためには、各地区ではそれぞれ地域密着型で経営課題に向き合いながら今年1年活動していきたいしよつ」と挨拶されました。

その後、記念例会として、東洋産業(株) 代表取締役 玄地学氏より「自社の現状の課題を正確につかみ解決の糸口をつかむ」「新企業変革支援プログラム」を取り入れた経営指針の実践のテーマでご報告いただきました。

新 会 員 紹 介

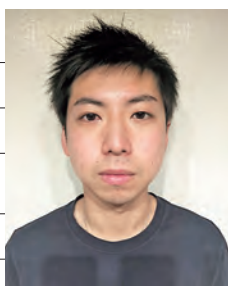
支部地区	県央支部 遠野地区
氏 名	佐々木 正弘
企 業 名	岩手砕石(株)
役 職 名	取締役・工場長
住 所	遠野市宮守町達曽部 36-25
T E L	0198-67-6301
F A X	0198-67-6654
事業概要	道路用砕石(路盤材)アスファルト、生コ ン用砕石(骨材)、盛土材等の生産販売



支部地区	盛岡支部 第2地区
氏 名	武山 申也
企 業 名	(株)レクエルド
役 職 名	代表取締役
住 所	盛岡市みたけ1丁目 7-23-5F
T E L	019-658-9185
F A X	019-658-9186
事業概要	イベント業



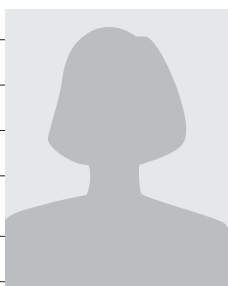
支部地区	県央支部 紫波矢巾地区
氏 名	川村 遥羽
企 業 名	杜陵テクノ(株)
住 所	紫波郡矢巾町高田 15-110-3
T E L	019-601-4350
F A X	019-601-4352
事業概要	電気設備工事・建築設備・設計施工管理・ 製作販売



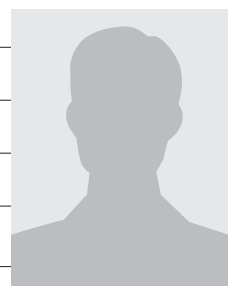
支部地区	盛岡支部 盛岡第3地区
氏 名	川村 正太郎
企 業 名	(有)川藤
役 職 名	専務取締役
住 所	盛岡市北飯岡4-15-15
T E L	019-614-0888
F A X	019-639-0771
事業概要	住宅設備機器・建築機械設備機器、配管機 材等の卸売、オストメイトトイレ販売



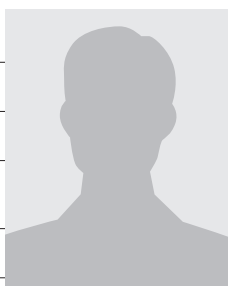
支部地区	盛岡支部 第1地区
氏 名	佐々木 理恵
企 業 名	心一未来一
役 職 名	代表
住 所	盛岡市東山二丁目 19-9
T E L	019-619-8389
F A X	019-619-8389
事業概要	建設業(仮設足場)



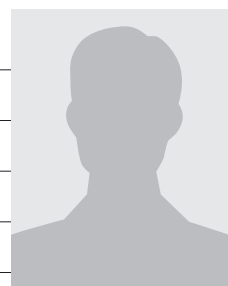
支部地区	盛岡支部 第3地区
氏 名	香取 正博
企 業 名	(株)BW
役 職 名	代表取締役
住 所	盛岡市南大通3-8-1 MJビル2F
T E L	019-601-3893
事業概要	美容室、アイラッシュサロンの店舗運営



支部地区	県央支部 紫波矢巾地区
氏 名	田森 大延
企 業 名	(有)ゆう太くん
住 所	紫波郡紫波町桜町 1-12-1
T E L	019-672-1841
F A X	019-672-1841
事業概要	総合衣料販売、惣菜製造・販売



支部地区	県北支部 はやて地区
氏 名	山本 康裕
企 業 名	山本養蜂場
住 所	八幡平市曲田16-2
T E L	0195-72-3542
F A X	0195-72-3542
事業概要	養蜂業、小売



書籍紹介コーナー

企業変革支援プログラム Ver.2

全国の経営指針の実践、社員教育、共同求人などの実践を教訓としてまとめた「企業変革支援プログラム ver2」が発行されました! 企業を取り巻く情勢が大きく変化する中で、自社をセルフチェックし今取り組むべきことを誰でもわかりやすく見える化。行動に移せるすぐれたツールです。ご注文は岩手同友会までどうぞ。

定価 2,200 円 (本体価格 2,000 円税抜)

新商品紹介

(有)橋勝商店 おかず屋「和・笑・輪」(陸前高田市)は、地元産の商品をセッとした「癒しのギフト」を販売しました。きっかけは母の日のギフトとしていつも頑張っているお母さんたちに感謝の想いを形にして届けたいということからでした。

セット内容は陸前高田の神田葡萄園の県産原料100%白(ナイヤガラ主体)の「カンダクラフトジュース」。椿茶は無農薬で自然の椿の葉使用、ノンカフェイン、ノンシュガー、ノンカロリー。ソイキャンドルはソイ(大豆)油を使った手作りキャンドル。おかず屋「和・笑・輪」では惣菜2,000円分のギフト券。4点がセットになっています。価格は5,800円商品注文はおかず屋「和・笑・輪」TEL 019-2147-15255まで



注文すると「明日」来る。
オフィス・事務用品通販なら「アスクル」で



外出せずにFAX、Webにてご注文できます！
ご登録・お問い合わせは平金商店へお待ちしております。

<https://www.askul.co.jp/ag/hirakin/>

ASKUL AGENT 株式会社 平金商店
アスクルエージェント TEL:019-624-2121

オリジナルラベル ワインを作成します

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

自園自蔵ワイン 紫波 社名ロゴ 包装、のし無料 12本以上 作成料無料
岩手県紫波町産ぶどう100%

お申し込み・お問い合わせ

Tel. 019-676-5301

自園自蔵ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク
醸造元 〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11



Southern Iwate DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
HIRAZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
<http://www.si-dsg.com/>
/mobile

めだか

有限会社いわてにつかコミュニティ企画
(事業内容) デイサービス/生活介護/訪問介護/住宅型有料老人ホーム
児童デイサービス/相談支援事業所/訪問看護/就労継続支援B型

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで
真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 植物 BDFの製造・販売 光触媒 CO2 エネルギー 燃料 BDF燃料

紫波環境株式会社
岩手県紫波郡紫波町南日語字小路口70-1
TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686
<http://shiwakankyo.com/>

物を大切にし環境にやさしくしたい 使わない人から使いたい人へ
総合リユースショップ **DokiDoki 2nd STREET**

(株)トータル・リユース
代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
ise yukiyo

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127
携帯 090-8780-3296
E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

書籍紹介!

「中小輝業への道」
～就業規則と「働く環境づくり」で成長する～
中小企業家同友会全国協議会 監修
働く環境づくりプロジェクトチーム著

A5判 約280頁
定価2,750円(本体価格2,500円+税)

☆お求めは岩手同友会事務局まで!

**人と自然にやさしい
環境を創り
地域型企業として
貢献します。**

岩手日化サービス株式会社
〒020-0402 盛岡市黒川 22-56
TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。
■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。
■本紙掲載
事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

DOYU
I W A T E
同友いわて
2023
Vol. 170

2023年7月1日発行
発行/岩手県中小企業家同友会
広報委員会

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-5 カガヤ肴町ビル3F
TEL 019-626-4477 FAX 019-626-1644
Mail: info@iwate-doyu.jp